

A SEASON OF RAY

「チャルラータ」「大都会」二大作連続公開

原作ラビンドラ・ナ・タゴール

監督・脚色・音楽サタジット・レイ

撮影シュブラト・ミットロ/美術ボンシ・チャンドログプタ

主演マドビ・ムカージー

ショーミットロ・チャタージー

豪華な邸宅の奥深く
若く美しいチャルラータ夫人の胸は
秘められた恋にときめく!

ベルリン国際映画祭 監督賞

インド映画の巨匠「大地のうた」三部作のサタジット・レイ監督

チャルラータ

CHARULATA



《シーズン・オブ・レイ》エキブ・ド・シネマ第6回上映

11月29日(土)より
ロードショー

(但し、12月29日より1月2日まで休館)
●1月上旬よりひき続いて「大都会」を上映

岩波ホール

地下鉄・神保町●国電・水道橋下車
電話262・5252<神田神保町交差点かど>

●上映時間

平日(月～土)12:30/3:30/6:30

日曜・祝日12:00/2:45/5:30

<入替え制/自由定員制>

●入場料金

前売券(日時指定券)800円

セット券(「大都会」とも)1,500円(1本750円)

当日券1,000円

●前売券はセット券とも岩波ホール・チケット
ガイドのほか都内主要プレイガイドにて発売中。

監督・脚色・レイ・サタジット

チャルラータ CHARULATA

製作 ● R.D. バンサル
原作 ● ラビンドラ ナタゴール
脚色 ●
監督 ● サタジット・レイ
音楽 ● シムラ・ミットロ
撮影 ● ボンシ・チャンドログプタ
美術 ●
配役
チャルラータ ● マドビ・ムカージー
アマール ● ショーミット・ロ・チャタージー
プバチ ● ショーレン・ムカージー
ウマバダ ● シヤマル・ムニヤル
マンダキニ ● ギタリ・ロイ

かいせつ

インド映画界の星、サタジット・レイ監督の名は、国際映画祭のたびに世界の注目のマツとなっていたが、わが国でも「大地のうた」(一九五五)、「大河のうた」(五六)、「大樹のうた」(五九)の三部作の公開によって広くその名を知られるようになった。

では、サタジット・レイにはほかにどんな作品があるのだろうか。オプーの少年時代に始まり、オプーが学業を終えて社会人になり、父親になるまでを描いた前記三部作はあれで一応完結している。しかも、通俗そのもののようなインド映画の常識を破るきびしいリアリズムの道を歩み続けたこの孤高な監督の行手はけわしく、第一部「大地のうた」の製作に着手した一九五二年から第三部「大樹のうた」の完成まで、実に七年の年月を要している。そのほかの彼の作品が一本も紹介されていないわが国では、彼はその後どうしているのだろうかという疑問ももつともである。

しかし、前記三部作によって、ベンガルの一監督サタジット・レイからたちまち世界のサタジット・レイとなつた彼は、だいたい一年に一作のペースで着実な作品活動を続けた後、名花マドビ・ムカージーにめぐりあうことによつて、彼女を主演に「大都会」(六三)とこの「チャルラータ」(六四)の二作をたて続けに発表した。

「大地のうた」三部作でインドの生活の貧しさを深く頭に刻みこまれたわれわれにとつて、この映画はガラリと趣きをかえ、一八八〇年のカルカッタの裕福な家庭における優雅そのもののようなチャルラータ夫人が主人公である。匂うがごとき美しさと教養の高さにまぶしいばかり

りのトップ・レディの繊細な女ごとりと妖しい恋のときめきを、レイ監督は成熟した手法で鮮やかに描き出し、インド映画にまたしても新しい一頁を開いた。

原作は、詩聖といわれ、ノーベル文学賞に輝くインド最大の文豪ラビンドラ・ナタゴールの「こわれた果」という長編小説で、その心理描写はさすがに精緻で鋭い。脚色はすべてのレイ作品と同様、レイ自身が担当し、撮影のシュブラト・ミットロ、美術のボンシ・チャンドログプタなど、いずれも「大地のうた」以来おなじみのサタジット・レイ一家ともいべき面々、音楽はレイ自身が作曲している。名花マドビ・ムカージーの相手役を勤めるショーミットロ・チャタージーは「大樹のうた」に主演している。

ものがたり

一八八〇年のカルカッタ。

金と若さと才気の三拍子そろつたプバチ・ダットは、「センチネル」という英文の週刊政治評論誌の編集長兼発行者として、ハリのある毎日を送つていた。

仕事に忙殺されている夫からひとり淋しく取り残された美しい妻チャルラータは、あり余る時間を刺繍と小説を読むことですごしていた。

プバチは、妻の孤独をまぎらすために、彼女の兄のウマバダ夫妻を呼び寄せることにした。ウマバダの妻マンダキニは、チャルラータの退屈を救ういい話相手になると考えたのである。

ウマバダはカルカッタに来て、「センチネル」誌の経理を担当することになった。ところが、妻のマンダキニはガサツで無学な女で、芸術や文学に親しむ感受性豊かなチャルラータとは、何一つ話が合わなかった。

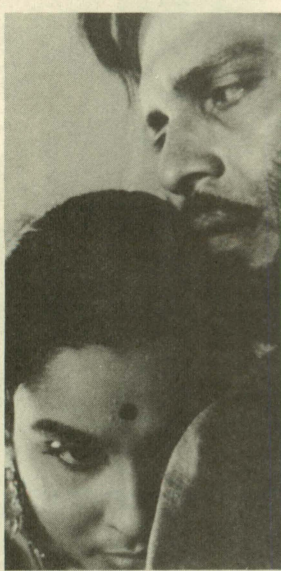
そこへ文学を志すプバチの従弟のアマールが大学の休暇で訪ねてきた。プバチはアマールに、文学好きのチャルラータの相手になつて、彼女の文学的な素養を深めてくれるように頼んだ。そうとは知らずに、チャルラータはたちまちこの親切的な文学青年アマールに夢中になった。

プバチは家庭のことよりも、仕事と結びついた国際的な政治の動きに心を奪われて、チャルラータの目立つた変化にも気がつかなかった。

ウマバダが、経理担当をいいことに、社の金を持って、逃走した。プバチがこの公金横領の事実を知つたのは、ウマバダの逃げた後だった。いつも高遠な国際政治のことしか念頭になかったプバチにとつて、身近な義兄からこんな仕打ちにあおうとは思えてもいなかった。悲歎のうちに、彼は信頼するアマールにこの事件を告げた。

これを聞いて、アマールは悩んだ。プバチの信頼を裏切つたウマバダはたしかに憎むべきだが、自分もまたチャルラータとの間に、プバチの知らない「裏切り」をしているのではないか。その晩、アマールは置き手紙を残してそつと家を出た。

翌朝、アマールのいないことがわかつて、チャルラータはたえがたいショックを、夫の手前懸命に隠し通した。プバチは心機一転をはかつて、妻のチャルラータとともに海岸で休暇をすごした。チャルラータのアマールに対する心の傷もようやく癒えたかに見えた。



しかし、それもつかの間、カルカッタに戻るとすぐ、アマールからの手紙が、何とかして消そうと努めてきたチャルラータの恋の炎を激しく燃え立たせた。すぐうしろに夫がいるのにも気がつかずに、彼女は激しく泣き崩れた。思つてもみなかった妻の不貞を知つて、ショックのあまり、プバチは家を飛び出した。

冷静をとり戻して、彼は初めて悟つた。この悲劇は、仕事の忙しさにかまけて、妻を顧みなかった彼自身にも責任があることを……。家庭の再建を胸に、プバチの足は再びわが家に向かつていた。

A SEASON OF RAY